

# 愛媛県 離島振興計画の概要

「住んでいる人々が元気に愛顔<sup>えがほ</sup>で暮らし、住んでみたくなる島づくり」を目指し、離島振興計画を作成した愛媛県。来年には広島県の島嶼部および臨海部の地域と連携した交流イベント「瀬戸内しまのわ2014」を開催する予定もある。長崎県に次ぐ離島県であるがゆえの課題も多いなか、行政や地域住民が一体となり、瀬戸内各県との広域的な連携も図っていく。

## 愛媛県企画振興部地域振興局地域政策課

### 1. 離島振興対策実施地域の概況

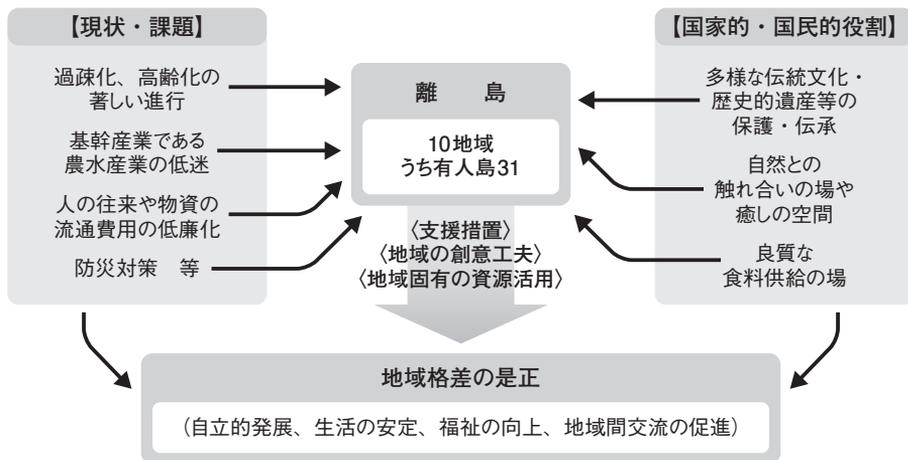
愛媛県では、七市町の一〇地域、有人島は三一島が離島振興法に基づく離島振興対策実施地域（以下、「離島地域」という。）の指定を受けており、地域数では全国一位、有人島数では全国二位となっています（地域数、有人島数は平成二五年四月一日現在）。

本県の離島地域においては、これまで一〇年ごとに六回の「愛媛県離島振興計画」（以下、「計画」という。）を策定し、道路、水道、港湾などの生活・産業基盤の整備を積極的に

推進してきたところですが、人口は平成二年の国勢調査では二万三七二三人であったものが、二〇年後の平成二二年には一万五〇一二人（三六・七パーセント減）に激減するとともに、高齢化率（六五歳以上の割合）が四五・九パーセントに達するなど、過疎化・高齢化が著しく進行し、活力の低下が懸念されております。

また、主要産業である農水産業の不振、離島固有の地理的に不利な条件による第二次・第三次産業の低迷などにより、離島を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあるとともに、離島住民の足である航路の維持や防災対策等、重要な課題を抱えております。

図1 計画の体系図



..... 目指すべき将来像 .....

今住んでいる人々が元気に<sup>えがお</sup>愛顔で暮らし、ほかからも移り住んでみたくなる島づくり

振興の基本的方向 〈基本政策〉

- 快適で安心して暮らせる島づくり
- 活力のある島づくり
- 交流の盛んな島づくり
- 持続可能な島づくり

快適で安心して暮らせる島づくり

- ・ 情報通信環境の整備
- ・ 生活環境の整備
- ・ 医療の確保等
- ・ 介護サービスの確保等
- ・ 福祉の増進
- ・ 教育・文化の振興
- ・ 国土の保全・防災対策

活力のある島づくり

- ・ 交通体系の整備等
- ・ 産業の振興
- ・ 雇用機会の拡充等
- ・ 人材の確保・育成

今住んでいる人々が元気に<sup>えがお</sup>愛顔で暮らし、ほかからも移り住んでみたくなる島づくり

交流の盛んな島づくり

- ・ 観光の開発
- ・ 交流の促進

持続可能な島づくり

- ・ 自然環境の保全等
- ・ 再生可能エネルギーの利用等

一方で、本県の離島は、本土から比較的近距离にあり、そのほとんどが瀬戸内国立公園及び足摺宇和海国立公園の海域内に位置し、豊かな自然環境と海洋資源に恵まれたうえに、固有の祭りや文化財などの伝統文化や歴史的遺産等を有し、優れた自然景観や良質の食糧供給の場としての国家的・国民的役割を担っているとともに、地域資源を最大限に活用した「癒し」や「ゆとり」などが体験できる体験・交流の場として、また新たな生活の場としての役割が求められております。

## 2. 計画の基本的な方針

このような状況の中で、離島振興法の改正を踏まえ、地域間交流を促進し、無人の離島の増加及び人口の著しい減少の防止や定住の促進を図ることとしており、計画では今後一〇年間の振興の基本的方向を

- ・ 快適で安心して暮らせる島づくり
- ・ 活力ある島づくり
- ・ 交流の盛んな島づくり
- ・ 持続可能な島づくり

として、「住んでいる人々が元気に愛顔で暮らし、住んでみたくなる島づくり」を目指し、県、市町及び地域住民が一体となり、瀬戸内各県との広域的な連携も図りながら、

今後の離島振興に努めることとしております。  
計画の中では、次のような分野別の振興方針を掲げてお  
ります。

### 【交通体系の整備】

宇和島市九島と本土を結ぶ九島架橋や上島諸島地域の生活道路となる上島架橋を推進するほか、離島の住民にとつて、本土と離島、また、離島と離島を結ぶ唯一の移動手段として欠かすことのできない離島航路について、定期航路の維持や安全かつ安定的な輸送の確保はもとより、住民が利用しやすい輸送体制の確保に努める。

また、離島地域では移動に対する負担感が強く、定住促進や交流人口の拡大等を図っていくうえで障害になっていくことから、離島航路等人の往来にかかる費用の低廉化に対する取り組みを進める。

さらに、物資の輸送に費用や時間が多くかかる状況にあり、産業の振興等を図るうえで大きな障害となっていることから、物資の流通効率化に対する取り組みを進める。

### 【情報通信環境の整備に関する事項】

離島においては、これまで、情報化の遅れた地域を対象に高度情報通信基盤の整備を推進してきたが、超高速ブロードバンドの整備など残された地域における情報格差の

図2 分野別振興方針の概要

えがお  
今住んでいる人々が元気に愛顔で暮らし、ほかからも移り住んでみたくなる島づくり

分野別の振興方針	交通体系の整備等	九島架橋の早期完成及び上島架橋の推進、島内道路の整備、離島航路及び島内バスの維持やサービスの向上、港湾・漁港施設等の整備、航路運賃の低廉化、物資の流通効率化等
	情報通信環境の整備	高度情報通信基盤の整備、ICT普及のための環境整備、各分野におけるICTの利活用促進、ICT利活用による地域活性化等
	産業の振興	柑橘・花き栽培の振興、生産基盤整備、栽培漁業・養殖業の推進、6次産業化や農商工連携の推進、人材の育成確保や起業化支援等
	雇用機会の拡充等	働きたい人の状況に応じた就職支援や離職者への再就職支援等
	生活環境の整備	水道事業の効率化、耐震施設への更新、安全な飲料水の安定確保し尿、生活排水の適正処理、廃棄物の資源化、減量化等
	医療の確保等	医師、歯科医師、看護師等の確保、医療施設・設備の充実、質の高い医療提供体制の充実、救急搬送体制の構築等
	介護サービスの確保等	介護サービス基盤の整備やサービス内容の充実等
	福祉の増進	在宅支援体制の充実、地域包括ケアシステムの構築支援、保育所施設の整備、特別保育の推進等
	教育・文化の振興	教育施設・設備の充実、教育環境の維持向上、通学費等の支援、多様な学習環境の整備、特色ある地域文化の保存・活用と次世代への伝承等
	観光の開発	地域の特性を生かした新たな滞在型観光地づくり、食や特産品を活用した経済波及効果の高い観光事業の開発等
	交流の促進	多様な地域資源を活かした体験・滞在型の交流事業の推進、各離島が連携した広域交流の取り組み、積極的な離島のPR等
	自然環境の保全等	海岸漂着物の円滑な処理や効果的な発生抑制策の推進
	再生可能エネルギーの利用等	再生可能エネルギーの導入促進、再生可能エネルギー利用に対する意識啓発等
	国土の保全・防災対策	河川改修、土石流等防止対策、海岸保全対策及び津波災害対策の推進、森林整備の推進、避難路や避難施設の整備、衛星携帯電話や臨時ヘリポートの整備、生活必需品等の備蓄、防災に関する知識の普及・啓発活動推進等
	人材の確保・育成	産業や地域活動の中核的担い手の育成、Uターン者等の外部人材の誘致等、企業や大学との連携による多様な人材確保
その他離島振興	人口増加に繋がる施策の総合的・複合的実施、離島と離島、離島と本土との連携強化、近県との連携による広域での振興方策検討等	

※枠囲み二重下線：法改正により新たに追加された項目 波下線：新規施策、一重下線：一部新たな要素を含んだ施策

解消が課題となっている。

また、高度情報通信基盤が整備された地域においても、利活用が遅れているなどの状況もあり、利活用を推進する人材育成及び県民生活や地域活性化に役立つ新たなサービスの提供、医療福祉や防災防犯、教育、環境などの各分野におけるICTの利活用促進を図るとともに、離島地域が有する優れた資源を活かした地域の活性化や産業の育成を図り、情報発信などICTを利活用することにより、農林水産業・観光などの分野の振興、販路拡大などを図る。

#### 【産業振興等に関する事項】

離島においては、農業と水産業が基幹産業として、離島の地域経済や住民生活を支えてきたが、広域交流、定住促進など今後の離島地域活性化のためには、引き続き、それぞれの島の基幹産業の振興を図っていく必要があることから、「愛媛産には、愛がある。」の統一キャッチフレーズのもと、本県の貴重な資源である農林水産物のPRやブランド化を図る。

農業については、地域の特性を活かした柑橘・花き栽培を中心に振興を図ることとし、これに必要な農道や農業用水路などの基盤整備を行うほか、新しい栽培技術の導入、高品質化、複合経営化を促進し、経営の安定化に努める。

水産業については、付加価値の高い栽培漁業や養殖業の

推進、漁港、漁場などの生産基盤の強化、水産動植物の生育環境の保全及び改善に加えて、消費者ニーズに応える流通加工体制の構築、「愛育フィッシュ」を活用した県産養殖魚のイメージアップ、魚食普及やブランド化の推進に努める。

さらに、農水産物の高付加価値化を図るため、加工技術の開発、加工設備の整備に努め、地域資源を活用する六次産業化を推進するとともに、観光・体験農園や観光・体験漁業、海洋性レクリエーションを通じた交流の拡大など、地域資源を活用した産業振興を推進する。

#### 【生活環境の整備に関する事項】

離島地域における水道整備については、これまでの離島振興施策により改善されてきたが、既存施設の老朽化が進んでおり、今後は、経営安定を目的とした水道事業の統合による効率化を図るとともに、近い将来予想されている東南海・南海大地震に備え、耐震性を有する施設への更新を推進する。

また、離島の地理的特性のため、少雨による渇水及び施肥による水質汚染が懸念されている地域については、新たな水源開発の検討を進め、安全な飲料水の安定確保を図る。

污水処理施設については、松山市島しょ部を中心として未整備の地域があり、生活環境の悪化や瀬戸内海、宇和海

の海域汚染の一因にもなっているため、農業・漁業集落排水事業を重点的に推進するとともに、個別処理が望ましい地域については、合併処理浄化槽の設置を促進し、し尿、生活排水の適正な処理対策を推進する。

#### 【医療の確保に関する事項】

医療については、有人島三十一島のうち、有医島が九島（二万二七七八人）、無医島が二二島（二七三五人）であり、有医島においても、医師一名の島がほとんどで、未だ十分な医療が確保されていない状況にあることから、愛媛県地域保健医療計画に基づき、病院、診療所に勤務する医師、歯科医師及び看護師等の確保に努めるとともに、医療施設・設備等の充実を図り、本土の医療機関との機能分担と連携強化により、安全・安心で質の高い医療提供体制の充実を図る。

また、救急医療については、離島のみで対応することは困難なため、救急艇の整備、県広域災害・救急医療情報システムの活用、消防防災ヘリコプターによる搬送体制づくり等により、本土の医療機関との連携強化に努める。

#### 【高齢者の福祉その他の福祉の増進に関する事項】

本県離島地域の高齢化率は、県平均二六・六パーセントの倍近くとなる四六・〇パーセントを示し、これまで経験

したことのない超高齢社会を迎えている中でも、高齢者が住み慣れた地域で、安心して、愛顔で暮らせる社会づくりを目指す。

このため、在宅高齢者の自立と生活の質の向上を図り、元気で生き生きとした生活が送れるよう、介護予防及び生活支援対策など、在宅支援体制の充実を図り、地域包括ケアシステムの構築の支援に努める。

また、地域社会の活力維持のため、高齢者が引き続き地域を支える貴重なマンパワーとして活躍できるように、老人クラブの育成や趣味・創作活動、スポーツ・レクリエーション活動、世代間交流等の生きがい活動を支援する。

#### 【教育及び文化の振興に関する事項】

島の将来を担う人材を育成するため、地域住民等と連携して、離島地域の教育環境の維持向上に努めるとともに、島の教育環境を生かした離島留学制度など学校を拠点とした交流活動の推進を図る。

また、本土や他の離島にある学校で学ぶため、遠距離通学や寄宿舎生活を行う児童生徒については、利用しやすい航路ダイヤの確保や通学費・居住費の援助などに努め、教育機会の一層の確保を図る。

さらに、離島地域はそれぞれが個性豊かな地域文化に恵まれていることから、特色ある地域文化の保存・活用、次

世代への継承に努めるとともに、広域的な連携も含めた積極的な情報発信により地域の活性化を推進する。

#### 【観光の開発に関する事項】

本県の離島地域は、瀬戸内海国立公園と足摺宇和海公立公園に位置し、多島海の美しい景観に恵まれているものの、交通の利便性など地理的・社会的要因により、全体的には観光客数は減少傾向にあることから、農漁業体験を行うグリーンツーリズムや、温泉等を活用したヘルスツーリズム、自然観光資源の保護に配慮しながら体験・学習するエコツーリズムなどを引き続き推進し、地域の特性を生かした新たな滞在型の観光地域づくりに取り組む。

#### 【国内及び国外の地域との交流の促進に関する事項】

島特有の自然景観や個性ある伝統文化等の多様な地域資源を活かした滞在交流型の事業を推進するとともに、実施に向けて準備を進めている「瀬戸内しまのわ2014」などの各離島が連携した広域交流の取り組みを進める。

なお、交流促進には、離島の状況や魅力を他地域の人々に理解してもらうことが大事であることから、情報発信等による積極的な離島のPRに努めていく。

また、交流活動などを通して他地域からの移住者呼び込み定住人口を増やすため、支援体制の強化を図るとも

に、空き家や廃校等の遊休施設の利活用による宿泊滞在施設等の整備も進める。

#### 【国土保全施設等の整備及び防災対策に関する事項】

離島は周囲を海で囲まれ急峻な山が海岸線に迫っているなど、地形的要因から風水害及び土砂災害に特に弱く、災害発生時には復旧にも時間を要する状況にある。このため、住民が安全で安心して暮らせるように海岸保全施設、砂防施設及び治山施設などの国土保全施設を整備する必要がある。

河川施設については、河道狭小等のため著しく治水機能が低下している箇所を洪水等による被害から守るために河川改修を、また、砂防施設については、土石流や急傾斜地の崩壊等から守る防止対策を、自然環境や景観との調和を図りながら積極的に推進する。

また、海岸施設については、本県離島地域は小さな島が多く、人家及び農地が海岸線に密集しており、台風や冬期風浪による越波により多大な被害が発生するため、住民の安全な生活確保のための波浪に対する海岸保全対策、及び東日本大震災を踏まえた津波災害対策を推進する。

防災対策については、離島という地理的条件を踏まえ、避難対策や孤立防止対策を推進する必要があるため、住民が安全に避難できるよう、災害の態様に応じた避難路や避

難場所を整備するとともに、孤立を防ぐため、衛星携帯電話や臨時ヘリポート等を整備するなど、大規模災害時の迅速な応急対策を可能にする体制の整備を推進する。

また、万が一孤立した場合においても、救援物資等が届くまで生き延びるための飲料水、食料、生活必需品等の備蓄を推進する。

そのほか、防災に関する知識の普及・啓発活動や防災訓練を実施し、自助・共助の取り組みを推進する。

【離島の振興に寄与する人材の確保及び育成の現況に関する事項】

これまでも産業や地域活動の担い手育成に取り組んできたところですが、人口の著しい減少や高齢化の進行により、産業や地域活動の中核的担い手がほとんどいなくなった離島が散見されることから、産業や地域活動の中核的担い手の育成に努めることはもとより、U I ターン者等の外部人材の誘致や登用を進めるとともに、企業や大学との連携による多様な人材確保を図る。

### 3. 各地域における特徴的な取り組み

#### 【魚島群島地域】

唯一の宿泊施設である「魚島観光センター」の充実を図

り、観光客の増加を目指すとともに、愛媛大学との連携を継続し、魚島の伝統行事である「てんてこ」や秋祭りの保存活動を実施する。また、スポーツ振興（卓球）や伝統文化の保存活動（獅子舞）などを通じ、住民同士や他地域との交流の場としての活用を目指した「魚島地域交流施設」を整備する。

#### 【上島諸島地域】

上島諸島地域の振興を図る上で重要な上島架橋については、すでに開通している弓削大橋、生名橋と合わせて本来の効果を発揮させるため、生名島と岩城島を結ぶ岩城橋の早期開通を目指している。

また、平成二三年度に弓削島に整備された「インランドシーリゾート F E S P A（フェスパ）」を観光・交流の拠点として、しまなみ海道と連動したサイクリストの受け入れ態勢の構築などに取り組み、交流人口の拡大を目指している。

さらに、平成二六年度に予定されている愛媛県・広島県共催の「瀬戸内しまのわ2014」では、同地域においても観光イベントの実施に向けて準備を進めている。

#### 【越智諸島地域】

優れた自然景観と豊富な海洋資源を有するとともに、水

表3 地域別振興計画の基本理念及び基本的方向性

(下線: 特徴的な取り組み)

地域名	市町村名	有人島名	計画の主な概要
魚島群島 2.71km <sup>2</sup> 228人	上島町	高井神島 魚島	<ul style="list-style-type: none"> <li>魚島地区光ファイバーケーブル架設整備</li> <li>簡易水道の維持管理整備</li> <li>魚島観光センターの活性化</li> </ul>
上島諸島 26.10km <sup>2</sup> 7,648人	上島町	弓削島 佐島 生名島 岩城島 赤穂根島	<ul style="list-style-type: none"> <li>上島架橋(岩城橋)の早期着工早期実現</li> <li>航路の維持及び利用者の利便性向上</li> <li>医療従事者の確保及び医療環境の充実</li> <li>定住促進事業の推進</li> <li>鳥獣害防止対策の推進</li> </ul>
越智諸島 2.25km <sup>2</sup> 51人	今治市	鵜島 津島	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定的な航路の確保及び交通施設の整備</li> <li>水道施設の整備及び新たな水資源確保の検討</li> <li>港湾施設の整備</li> </ul>
関前諸島 2.65km <sup>2</sup> 119人	今治市	大下島 小大下島	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定的な航路の確保及び交通施設の整備</li> <li>医療の充実及び緊急医療の整備</li> <li>ブロードバンド環境の整備</li> </ul>
来島群島 1.34km <sup>2</sup> 76人	今治市	小島 来島 馬島 比岐島	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定的な航路の確保及び交通施設の整備</li> <li>地域資源を活かした観光の推進</li> <li>防災行政デジタル無線整備</li> <li>交流の拡充による水軍ネットワーク形成</li> </ul>
新居大島 2.14km <sup>2</sup> 257人	新居浜市	大島	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃校後の小学校を交流施設として整備及び新施設を拠点とした各種団体等の活動への支援</li> <li>介護予防教室や生きがい活動への支援</li> <li>大規模災害発生時における孤立対策の推進</li> </ul>
安居島 0.26km <sup>2</sup> 24人	松山市	安居島	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種船賃助成制度の維持・拡充</li> <li>漁業振興のための基盤整備</li> <li>里島ツーリズムの促進</li> </ul>
忽那諸島 36.12km <sup>2</sup> 4,695人	松山市	野忽那島 陸月島 中島 怒和島 津和地島 二神島 釣島	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種船賃助成制度の維持・拡充</li> <li>災害に強い離岸堤などの基盤整備</li> <li>体験滞在型交流施設の整備</li> <li>里島ツーリズムの促進</li> <li>全国に認知される「里島ブランド」の確立</li> <li>地域活性化につながる地域リーダーの育成</li> <li>廃校など未利用施設の利用促進</li> </ul>
青島 0.49km <sup>2</sup> 19人	大洲市	青島	<ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリー化した定期船への更新</li> <li>島内道路の補修及び避難路への手摺設置</li> <li>臨時ヘリポートの整備</li> </ul>
宇和海諸島 11.99km <sup>2</sup> 2,113人	八幡浜市 宇和島市	大島 九島 嘉島 戸島 日振島 竹ヶ島	<ul style="list-style-type: none"> <li>航路運賃及び物流コストの低廉化の推進</li> <li>磯根資源増養殖の試験研究推進、加工品開発</li> <li>地域活性化に寄与する人材の育成</li> <li>九島架橋の早期完成</li> <li>防災情報システムの整備と防災対策の強化</li> <li>水産業の生産・加工・販売一環システムの構築</li> </ul>
10地域 86.05km <sup>2</sup> 15,012人	7市町	31島	

※面積は有人島に係る数値。

軍関係の史跡も多く存在しており、これらの資源を保全するとともに、豊かな自然環境を生かしながら交流人口の拡大を目指している。

#### 【関前諸島地域】

平成二〇年の安芸とびしま海道の開通により広島県本土と陸上交通が可能となった岡村島との連携を強めることにより、岡村島を含めた関前地域全体で、農業・漁業・観光が一体となり、「せきぜんブランド」開発の取り組みを進める。

#### 【采島群島地域】

国指定名勝として采島・小島を含む波止浜の風致景観の保護に努めていくほか、采島の采島城跡、小島の芸予要塞跡を貴重な歴史遺産として、郷土の歴史学習の場として活用されるべく、今後も可能な限り現状保全に努めていく。また、平成二六年度に予定されている「瀬戸内しまのわ2014」を活用して、豊かな地域資源を国内外に積極的に情報発信する。

#### 【新居大島地域】

廃校後の小学校を交流施設として地域活性化の中核拠点となるよう検討を進めるとともに、「とうどおくり」をは

じめとする伝統行事を積極的に情報発信することにより、交流人口の拡大を目指す。

また、島内の自然・史跡等をサイクリングやウォーキングしながら学習・体験するエコツーリズムなどを推進するとともに、特産品である「白いも」の関連商品の開発やPRを推進することにより、ブランド力を高め、大島の知名度向上を図る。

【安居島地域】（平成二五年七月一七日付けで忽那諸島地域へ編入）

島の特産品である「瀬戸の島ヒジキ」のブランド化や産地化を推進するとともに、忽那諸島地域と一体となって「里島ツーリズム」を推進することにより交流人口の拡大や地域の活性化を進める。

#### 【忽那諸島地域】

「島びとが生き活きと輝く笑顔あふれる里の島」を実現するため、特産品のブランド化や販路拡大を図るとともに、一定期間の「お試し移住」が可能となる滞在型交流施設の整備や受け入れ態勢の構築に取り組むほか、廃校となった学校施設などの活用を検討し、交流人口の増加や雇用の創出につながる未利用施設の活用策の調査研究に取り組む。

また、平成二二年度に開催された「松山島博覧会」で生

まれた魅力ある体験メニューの充実や「地産知招」の視点を取り入れた新たな体験メニューの開発を支援する。

#### 【青島地域】

本土と唯一の交通機関である青島く長浜航路の存続維持のため、老朽化した定期船をバリアフリー化した新船に更新するほか、郷土芸能「青島盆踊り」を広く伝承し、世代間の交流等を推進する。

#### 【宇和海諸島地域】

交通基盤整備として、九島架橋の平成二七年度中の早期完成を目指して工事を進めることとしているほか、主要産業である漁業の振興を図るため、とる漁業から水産資源を管理していく漁業へと展開できるよう漁港・漁場の整備等を進める。

特に大島では、廃校舎を活用して設置した「大島産業振興センター」を拠点として、アワビ・ナマコなどの磯根資源の増養殖の試験研究を進め、水産加工品の開発や六次産業化等を図る。

また、地域資源を活用した魅力ある観光プランの作成や情報発信に取り組み、海水浴、磯釣り、クルーザーやヨット等のマリンスポーツなどの海洋性レクリエーション基地としての可能性や観光漁業の発展策を検討する。

## 4. まとめ

今後、離島振興法の趣旨に基づき、離島地域が有する歴史・文化や豊かな自然環境などの魅力あふれる地域資源を活用するとともに、創意工夫や支援措置を講じることによって、地域格差の是正を図り、自立的発展を目指すこととしています。

なお、平成二五年七月一七日付けで忽那諸島地域の興居島が新たに離島指定を受けるとともに、一島一地域として指定されていた安居島地域が忽那諸島地域に編入されたところであり、新たな地域指定のもとで、離島地域が一体となった振興策に取り組みたいと考えています。